

数学 (解答例)

[問題 I 解答例]

I. (1) 固有方程式を解くことにより, 固有値 2, 2, 4 を得る.

(2) 例えば,

$$P = \begin{pmatrix} 0 & 1/\sqrt{2} & -1/\sqrt{2} \\ 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1/\sqrt{2} & 1/\sqrt{2} \end{pmatrix}, \quad D = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 4 \end{pmatrix}$$

など. 別の組もあり得る.

(3) 上記 (2) で示した行列 A に関する性質や, 計算により, $AB = BA$ が成り立つことを示せばよい.

(4) $Y \in C(D)$ に対して, $X = PYP^{-1}$ とすれば, $F(X) = Y$ が成り立ち, さらに $X \in C(A)$ であることが確認でき, 題意を得る.

(5) $F(X_1) = F(X_2)$ の式の両辺の左から P , 右から P^{-1} を掛ければ, F の定義より題意を得る.

(6) $X_1, X_2 \in C(A)$, $\alpha \in \mathbb{R}$ について, F の定義に従い, $F(X_1 + X_2)$ と $F(\alpha X_1)$ を計算すれば, 題意を得る.

(7) $DX = XD$ を計算することにより, 行列 X について $DX = XD$ であることと

$$x_{13} = x_{23} = x_{31} = x_{32} = 0$$

であることが等しいため, 上記が題意の条件であることがわかる

(8) 問 (7) の結果から, $C(D)$ の次元は 5 である. 問 (4) – (6) の結果より, $F : C(A) \rightarrow C(D)$ は同型写像である. よってベクトル空間 $C(A)$ と $C(D)$ は同型であり, 次元も等しい. $C(D)$ の次元は 5 であるので, $C(A)$ の次元も 5 である.

$C(D)$ の次元を求める他の方法として, $AX - XA = O$ を直接計算する方法や, $G(A) = AX - XA$ の表現行列を 3×3 実行列集合の基底 $E_{11}, E_{12}, \dots, E_{33}$ に対する $G(E_{11}), G(E_{12}), \dots, G(E_{33})$ から求め, この行列の核の次元を求める方法などが考えられる.

[問題 II 解答例]

(1) $f(x)$ は何回も微分可能な場合次の展開式が成り立つ.

$$f(x) = f(0) + \sum_{k=1}^n \frac{f^{(k)}(0)}{k!} x^k + o(x^n). \quad (1)$$

ただし、この問題はロピタル定理を使ってもできる。

ここで、 $\lim_{x \rightarrow 0} o(x^n)/x^n = 0$. この式を使うと、 $f(x) = \sin x, f^{(1)}(x) = \cos x, f^{(2)}(x) = -\sin x, f^{(3)}(x) = -\cos x$.

(a)

$$\sin x = x - \frac{x^3}{6} + o(x^3).$$

よって、

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin x - x}{x^3} = -\frac{1}{6}.$$

よって、 $a_0 = 0, a_1 = 1, a_2 = 0, a_3 = -\frac{1}{6}$.

(b)

一方、 $g(x) = \sqrt{1+x} = (1+x)^{1/2}$. $g^{(1)}(x) = \frac{1}{2}(1+x)^{-1/2}$. $g^{(2)}(x) = \frac{1}{2} \times \frac{-1}{2}(1+x)^{-3/2}$, $g^{(3)}(x) = \frac{1}{2} \times \frac{-1}{2} \times \frac{-3}{2}(1+x)^{-5/2}$. したがって、 $g(x)$ は以下のように展開できる。

$$g(x) = 1 + \frac{1}{2}x - \frac{1}{8}x^2 + \frac{1}{16}x^3 + o(x^3).$$

よって、

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{g(x) - (1 + \frac{1}{2}x - \frac{1}{8}x^2)}{x^3} = \frac{1}{16}.$$

$b_0 = 1, b_1 = 1/2, b_2 = -1/8, b_3 = 1/16$.

(c)

$(x, y) \neq (0, 0)$ について、

$$\frac{\partial h(x, y)}{\partial x} = \frac{(x^2 + 2y^2)2y - 2xy(2x)}{(x^2 + 2y^2)^2} = \frac{4y^3 - 2x^2y}{(x^2 + 2y^2)^2}, \quad (x, y) \neq (0, 0).$$

$(x, y) = (0, 0)$ について

$$\frac{\partial h(0, 0)}{\partial x} = \lim_{\delta \rightarrow 0} \frac{h(\delta, 0) - h(0, 0)}{\delta} = \lim_{\delta \rightarrow 0} \frac{0}{\delta} = \lim_{\delta \rightarrow 0} 0 = 0.$$

(2) (a)

$$\begin{aligned}
B(a+1, b) &= \int_0^1 x^a (1-x)^{b-1} dx \\
&= \int_0^1 x^a d - \frac{(1-x)^b}{b} \\
&= -x^a \frac{(1-x)^b}{b} \Big|_0^1 + \int_0^1 \frac{(1-x)^b}{b} a x^{a-1} dx \\
&= \frac{a}{b} \int_0^1 x^{a-1} (1-x)^b dx = \frac{a}{b} B(a, b+1).
\end{aligned}$$

(b)

$$\begin{aligned}
B(a, b+1) &= \int_0^1 x^{a-1} (1-x)^b dx \\
&= \int_0^1 x^{a-1} (1-x)^{b-1} (1-x) dx \\
&= B(a, b) - \int_0^1 x^a (1-x)^{b-1} dx \\
&= B(a, b) - B(a+1, b).
\end{aligned}$$

(c)

$x = uv, y = u(1-v)$ と置くと $(u, v) \rightarrow (x, y)$ は $\Omega : 0 \leq u, 0 \leq v \leq 1$ の内部を $D : 0 \leq x, y$ の内部に 1 対 1 に写す. u, v の領域の求め方として, $uv > 0$ と $u(1-v) > 0$ から $u > uv > 0$ を得る. これを $uv > 0$ と合わせて $v > 0$ を得る. さらに $u(1-v) > 0$ から $u > 0, 0 < v < 1$ を得る.

i) ヤコビアン

$$\begin{vmatrix} \partial x / \partial u & \partial x / \partial v \\ \partial y / \partial u & \partial y / \partial v \end{vmatrix} = -u.$$

したがって, ヤコビアンの絶対値が u である.

ii) よって

$$dxdy = u du dv.$$

$$\begin{aligned}
& \int_0^\infty \int_0^\infty e^{-x-y} x^{a-1} y^{b-1} dx dy = \\
&= \int_0^\infty \int_0^1 e^{-u} u^{a-1} v^{a-1} u^{b-1} (1-v)^{b-1} u du dv \\
&= \int_0^\infty e^{-u} u^{a+b-1} du \int_0^1 v^{a-1} (1-v)^{b-1} dv \\
&= \Gamma(a+b) B(a, b).
\end{aligned}$$

よって

$$\Gamma(a)\Gamma(b) = \Gamma(a+b)B(a, b).$$

iii) $a = b = 1/2$ とすると,

$$\Gamma(1/2)^2 = \Gamma(1)B(1/2, 1/2).$$

一方, $\Gamma(1) = 1$ を容易に確認できる. また, $B(1/2, 1/2) = \pi$ が与えられているため,

よって

$$\int_{-\infty}^\infty e^{-y^2} dy = \sqrt{\pi}.$$

$y = z/\sqrt{2}$ と置くと

$$\int_{-\infty}^\infty \frac{1}{\sqrt{2\pi}} e^{-z^2/2} dz = 1$$

を得る.